

大山町所子(鳥取県)

(1) 保存地区の概要

- (地区名) 大山町所子
- (種別) 農村集落
- (面積) 約25.8ヘクタール
- (選定年月日) 平成25年12月27日
- (特徴)

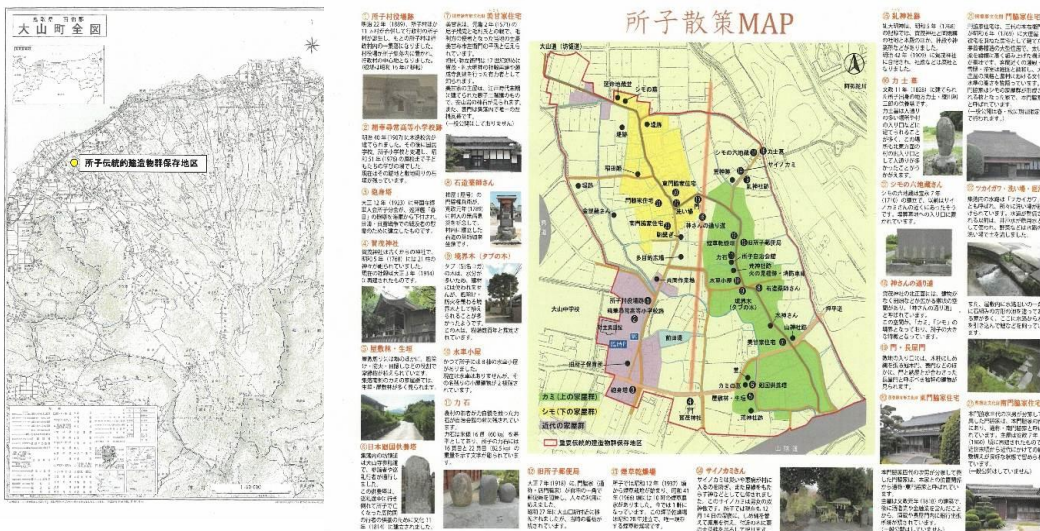
大山町所子伝統的建造物群保存地区は、集落内を通る道に主軸方向を沿わせた主屋、その周囲に建てられた長屋門、蔵、納屋、厩舎などの諸施設が配されている。

それらの建物には、近世から昭和30年頃に建築された伝統的な建築物等が多く残され、鳥取県伯耆地方の農村の伝統的な形式をよく伝えている。

また賀茂神社北正面の「神さんの通り道」と呼ばれる帯状の空間を挟んで、所子の「カミ」「シモ」の家屋群が位置する集落形態は、所子集落において歴史的に形成された個性的な景観となっている。それらの周囲に位置する近世以降の地割を伝える田畑、農家の敷地や田畑周りを縦横に巡る水路等が家屋群と一体となって、伝統的な農村景観を形成している。

(2) 保存地区のあゆみ

- 平成22年 1月 伝建制度にかかる住民説明会開催
- 平成22年 8月 第一次保存対策調査終了、報告会開催
- 平成22年 9月 『大山町所子伝統的建造物群保存対策調査報告書』刊行
- 平成22年12月 地元住民が「所子伝建委員会」を設立
- 平成24年12月 大山町伝統的建造物群保存地区保存条例施行規則制定
- 平成25年 1月 大山町伝統的建造物群保存地区保存条例制定
- 平成25年 5月 大山町伝統的建造物群保存地区保存審議会規則制定
- 平成25年 5月 第1回大山町伝統的建造物群保存地区保存審議会開催
- 平成25年12月 官報告示「重要伝統的建造物群保存地区」選定
- 平成26年11月 国重要文化財「門脇家住宅」一般公開と併せて町並み保存会によるまち歩き散策ガイド開始
- 平成27年 3月 所子重伝建選定一周年記念シンポジウム開催
- 平成28年 4月 所子伝統的建造物群保存地区が構成文化財の一つとして「日本遺産」認定
- 令和 3年11月 所子伝統的建造物群保存地区トイレ完成



(3) 保存地区の保存と整備

主な整備状況

(平成30年度) **修 理 2件** (平成31年度) **修 理 1件** (令和2年度) **修 理 3件** (令和3年度) **修 理 2件**
修 景 1件

トイレ 1件

(修理事業の例)



(修理前)

(修理後)

(修景事業の例)



(修景前)

(修景後)

(伝建地区公共トイレ設置)



(修理前)

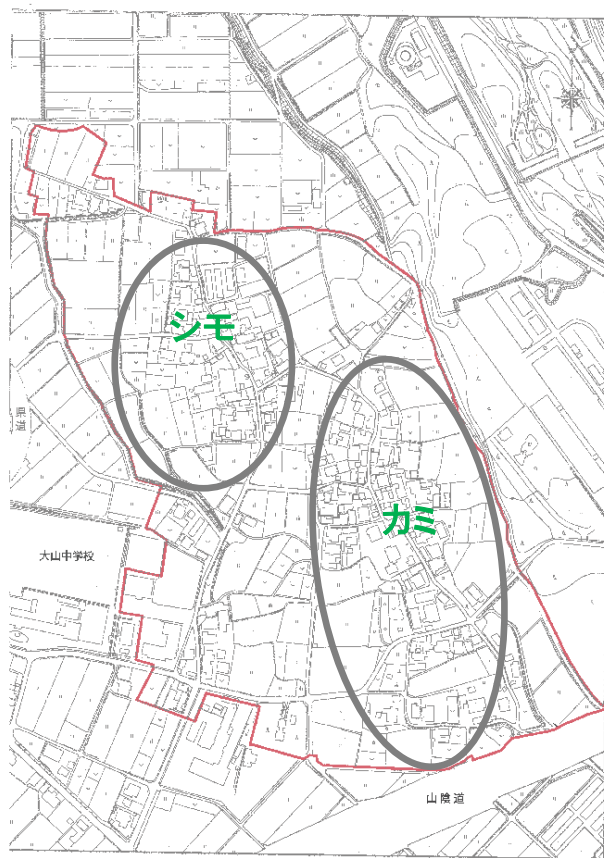
(修理後)



(4) 保存地区の活用とまちづくり

(主な特徴)

- ・平地農村型で**カミ**・**シモ**の家屋群及び近世以降の地割を伝える田畑から構成されている。
- ・農業を生業とした特徴ある伝統的建造物が、周囲の農地及び水路と一体となって歴史的風致を形成し良く残されている。



圃場整備前(昭和44年)

圃場整備後(平成21年)

(活用とまちづくり)

- ・上記のとおり農業を生業とした特徴ある伝統的建造物群が、周囲の農地及び水路と一体となって歴史的風致を醸しだしている。
- ・また、古くから大山道沿いの所子伝統的建造物群保存地区では、母屋に近い小屋で牛馬が飼われていた。地区内には「牛繋ぎ石」や「牛馬万人供養塔」などが残存しており、このような「牛馬信仰」などと大山の自然が結びつき、「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」のストーリーが平成28年4月に「**日本遺産**」として認定され、広く知られるところとなった。

大山町所子(鳥取県)

(ボランティアガイドの活動)

地区内では、「所子町並み保存会」の会員が中心となりボランティアガイドが行われている。

活動としては、毎年春と秋に行われる国重要文化財「門脇家住宅」一般公開期間中と随時申込があったときに、見学者の人数に応じて地区内のガイドをしておられ、現在7名のガイドで活動されている。



ボランティアガイド
の活動の様子



ボランティアガイド利用人数は下記のとおりとなっている。

(平成30年)	(平成31年)	(令和2年)
202名	104名	27名

平成28年4月の「日本遺産」認定、平成30年に「大山開山1300年祭」以降、所子地区にも多くの来訪者が訪れるようになった。今後更にボランティアガイド活動の必要性も増してくるが想定されるため、保存会でも人材の確保とガイドの知識向上の取り組みが課題となっている。(令和3年は新型コロナのため、活動休止)

(5) 住民等の取組み

(地区住民の取組み)

地区内では盆踊り、賽の神さん、とんどさんなどの年中行事が現在も執り行われている。

住民憲章の中に網羅しているように「自然の景観と先人たちが営々と築いた歴史文化」を誇りとされており、地区内の人々が主体となって伝統的な農村集落の歴史的風致が保全され、育まれていく取組みがなされている。



賽の神さん

(地区住民の声)

「大山と日本海が美しく見える農村集落・所子」

伝建という建物ばかりに目がいきがちだが、所子集落では建物以外にも阿弥陀川から引いた水が流れるいくつかの水路や「大山参り」のために大山に向かう大山道(坊領道)など昔を偲ばせる景観が残っている。また、双子集落とも呼ばれるように「神様の通り道」で分けられたカミとシモの家屋群があるのも興味深い。

伝建選定後9年目を迎えるが、住民も曖昧にしか知らなかったことが、調査研究によって資料に基づいて明らかになっていくことで、私たちの視野も広がっていく。来訪者から教わることもある。修理・修景の基準をめぐって課題はあるが、皆で力を合わせて、伝建に選定させて良かったと思えるように努力したい。是非、大山と日本海が美しく見える農村集落・所子へお出かけください。

(町並み保存会会長)